






分野	テーマ	現状・課題	分野別の目指す将来像	目指す将来像を実現するために必要な取り組み		
				既存の取組み	話し合いの場に出された意見(一部抜粋)	
つながり・地域活性	<ul style="list-style-type: none"> ■地域内交流 ■魅力づくり ■魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のお店活用が必要。・駐車場、休憩所、トイレ、ATM(銀行)がない。 ・高齢者に限らず、いろいろな世代が集まることのできる屋内施設がほしい。交流参加への機会が少ない。 ・情報が届かない(特に若者に…)・年齢によって情報収集がさまざま ・コロナで運動会や人と人が触れ合うイベントができない ・小中学生が利用しやすい場所がない。公園が少ない。 ・子どもの挨拶が良い。大切にしたい・人が温かく、住民のつながりが強い ・八郎川周辺の散歩道がよい交流の場となっている・地域でつながる場が減っている ・中学生(若者)の地域の情報はSNSより掲示板(アナログ)の方が効果的である 	世代をこえたつながり 情報が届いて！！ 人と文化がつながって！！ 地産地消で活性化！！ 学校の掲示を活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・回覧板 ・自治会そうじ(年2回) ・運動会(船石町) ・夏祭り+そうめん流し(鶴の尾町) ・古賀くんち ・鬼火たき(植木センター内) ・植木祭り ・イルミネーションなど(国道34号線) ・古賀を語る会 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな世代がいっしょに集まる機会をつくる。(学童の時間に合わせて高齢者の集まりを開く) →同じ時間、同じ場所で共有できる。・古賀の郷土料理を教える機会、場所をつくる。・お店に働きかける。 ・八郎川(散歩道の整備)をきれいにする(植木)。(行政との連携、企画づくり、住民の参加) ・季節ごとにふれあうイベントをつくる。・ラカンマキを活用する。・お庭(駐車場)の提供。 ・人が沢山集まるところに情報発信の場所を置く。・遊耕地の貸し出し、活用・お花を植える ・古賀市民センターにみんなが利用しやすいフリースペースをつくる。・自分たちのできる範囲で草刈りなど。 ・散歩がしやすいように遊歩道マップをつくる。(案内板を立てる) ・子どもたちが楽しめるように出店やイベント、フリーマーケットを企画する。→昔遊び教室 ・イベントだけでなく食べ物・文化・行事もせて発信する。(外部に発信して交流を作る) ・地域のイベントカレンダー(年間)を作る・地域が盛り上がれば波及していく 	
		歴史・伝統	<ul style="list-style-type: none"> ■保存 ・継承 	<ul style="list-style-type: none"> ・植木の里であるが自由に見れない。 ・史跡が認知されていない。(地元の人も含む) ・若い人たち(特に親世代)との歴史、文化の共有。 ・伝統を残していくための手段がない。 ・古賀さるくができるような、キリシタンの里(史料が少ない)、旧本田邸、古賀人形などの史跡・伝統文化がある。 ・さるくコースが知られていない・独自の食文化がある。 	多彩な歴史伝統文化を活かす！	<ul style="list-style-type: none"> ・JA女性部料理講習会・植木のさるくコース ・古賀くんち・史跡めぐり(過去1回) ・歴史講話(今年度3回)・龍踊り(松原) ・浮立(中里・船石・古賀) ・ココデシヨ(松原・古賀) ・古写真の編集(社協)
子ども・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ■遊び場 ■子育て 	<ul style="list-style-type: none"> ・本屋さんなくなった。図書館がほしい。・通学路が狭い・雨の日に遊べる場所がない ・中学校の図書館が使いづらい(放課後の使用もできない)・文房具が近くで買えない。お店が少ない。 ・子どもが穏やか・公園に関する情報が共有されていない制限が多い。・母親同士のつながりが強い ・子育てしやすい・地域見守り隊があり、安心・公衆電話が少ない。なくなっている。 ・街灯が少ない。・制限が多く、外で遊べない。・自転車やボールが使える広場がほしい ・近所の方がボランティアで通学の見守りをしてくれている(つつじが丘) ・駄菓子屋さんがいない・駐車場の広い公園がほしい 	戻りたくなるまち 移り住みたくなるまち 交流の場がたくさんあるまち！！	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の整備・学習スペースの活用 ・通学の見守り・龍踊り(松原) ・かど松作り ・夏祭り・もちつき ・鬼火・グランドゴルフ大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・古賀の魅力をホームページなどでPRして人を呼び込む。 ・地域が一体となって地域の声をまとめて行政などに要望する。 ・公園の使用についてルールを作る。(公園マップの作成)共通様式でわかりやすいもの(看板) ・川の整備(川の掃除などみんなでする)・子ども110番の募集・子どもと触れ合えるイベントを増やす。 ・談話室の整備(12月予定)に協力する。(木や備品の提供) ・つつじが丘の見守り隊を他の地区にも広げる(募集したら手を挙げてくれると思う)。 ・登下校の時間に合わせて、ウォーキングや庭そうじをする(タスキやピスをつける) 	
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ■交通の利便性 ■鳥獣対策 ■買い物・利便性 ■環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて行けるスーパーがない。(車が乗れなくなると困る)・街灯が少ない ・地域によって友達が集まれる所が少ない。(広い広場)・通学路の整備が遅い ・鳥獣対策が必要・循環バスや寄合タクシーがあればよい ・猟友会の担い手不足。・買い物や通院支援してほしい。 ・環境整備→制約(条件)で家を好きに建てられず子どもが帰ってこない。草刈りが不十分である。 ・高速道路が近いのでいろんな所へ行ける・みどりが多く、住みやすい町 	若い人も住みたくなる街づくり 長く住み続けられる故郷(ふるさと)づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り(ほたる) ・神事(祭り)をしている(船石町) ・運動場のゴミや石ひろい(小学校) ・防犯パトロール(育友会・船石町) ・施設周囲の清掃(遊歩の会) ・不法投棄パトロール(船石町) ・ララコープの送迎車 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動スーパー・運動場をボールで仕切り、遊ぶ場所を確保する。 ・子育てしやすい地域、病院(小児科)地域みんなで子ども達を見守る。古賀くんち(お祭り)、すもう、出店(くじ) ・鳥獣対策→行政や猟友会に捕獲を強めてもらう。柵の適正な設置や点検を強化する。 ・交通の利便性、買い物→34号線の4車線化の要望 ・環境整備→土地利用の制限の緩和を要望。ボランティア草刈りの継続強化。 ・買ひもの。→循環バスの導入を検討する(行政、スーパー、協議会による運営)アンケートをとって「とくし丸」を呼ぶ。(S東美)導入したらPRして利用率を高める。 	
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ■環境保全 ■川の整備・活用 ■ホタルの保全・活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理(草刈り等)の後継者がいない。・山森も竹山になってしまっている。 ・八郎川の水道取水のためのせきに魚道がない(魚が上流にのぼれない)。 ・八郎川の土砂しゅんせつをしたらホタルが減る。 ・古賀地区の魅力がアピールできていない。魅力が点在し、連動していない。 ・古賀の歴史や地域の特色を知らない人が多い。 ・自然が豊かで暮らしやすい。後世に残したい・植木、ホタルなど環境面がいい ・八郎川の河川敷の紫陽花が綺麗である ・イノシシが放棄地にあつまる。 	グリーンツーリズムを楽しむまちづくり (山・川・道をキレイに！) あじさいロードをつくらう！八郎川であそぼう！植木公園をつくらう！ 古賀地区の自然や歴史を大事にして世界に発信していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り・あじさい植え・「らかんまん」 ・あじさい、ひがな花植栽除草 ・花だんづくり(松原みどりの少年団) ・桜の植樹・上座のあじさいロード ・古賀さるく(歴史探訪) ・通都川の除草(ホタル保護) ・植木まつり(植木庭園探訪) ・SNSで情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・山であそぶ所がない。・自然体験をしたい。ごみをひろう。・お花を少しずつ植えていく。 ・あじさいまつり(挿し木のプレゼント)やホタルまつりで人集め。 ・耕作放棄地を活用し、菜の花、ヒマワリ、コスモス、そばの花他を植える。 ・夏休みに八郎川等で川遊び(カヤックなど)と、生物学習会を実施する。 ・古賀にまつわるストーリーやいきさつ(植木・幸福のらかんまきネーミング)を地域で大事にして昔話風に伝える。 ・長崎だけではなく佐賀とも連携する。・あじさいロードの道の名前をつける。ライトアップ、看板。 ・ゴミひろいなどの清掃活動をする。・耕作放棄地を活用し、子どもと大人の「ひみつきち」づくりこり組む。 ・野菜づくり、すみやき等の継承・空き地を整備してスケボーパークやドッグランを作る(人集め)。 ・SNS(インスタ)を使って周知→長崎市→他県→世界へと発信。・草刈りをイベントに。 	
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ■見守り ■買い物支援 ■移動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少(若い人世帯)、高齢者の増加(エリアで差はある)、行事等が多い。 ・以前は多かった祭りごとは減っている。後継者不足。高齢者の行事が多い ・買い物難民がいる(交通の便が悪い。重たいものが持てない。)・パソコン、スマホの操作不慣れ。・高齢者の収入の差(年金で入れる施設)・必要な人に必要な支援があるか(介護サービスはある)。 ・老人会以外の集まりやレクレーション(場所・公園)が少ない。移動手段がない。 ・自治会の会員の減少(自治会で差がある/メリットをPR、増やすための取り組み)。 ・一人暮らし。身寄りがなく通院や入院の準備困る→民生委員の支援 ・駅の活用が少ない。道路が狭くて(肥前古賀駅)バスが通らない。(市の計画あり)松原バス停から。 ・近くの店で送迎するスーパーがあれば…地域とお店が検討・NPOの立ち上げを検討・企業への助成 ・情報共有ができていないため、その手段を検討・趣味をもつ人が少ない・高齢者全体での活動がない 	高齢になっても自分たちで課題を解決できるしきみがある。 →コミュニティのなかで運営できる。仕掛ける必要がある。 施設に入らずに自宅で元気に暮らし続けられる高齢者にやさしいまちづくり(歩く。7000歩。グランドゴルフ)。	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物送迎(スーパー、エレナ・ララコープ)→周知 ・一人暮らし高齢者へ民生委員を支援 ・通院→送迎している病院がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物など移動の支援→近所の行きたい店へ。車の調達。ボランティア。社会福祉法人との連携。利用する人も負担。支援する側もワンコイン。 ・集まる場での情報共有(ボランティアから「仕事(収入)」を作る)→地域で集まる場。スマホの操作…ネット通販等の買い物。実際に一緒に作業をする。教える側も習う側も高齢者で若い世代も入る(中学生も) ・駅を上手く活用し、コミュニティバスを導入する(買い物など) ・公民館、公園を活用し、集まりの場を増やす。・隣近所で声をかけ合う。 ・多世代サロンの立ち上げ ・一人で食べるよりもみんなでご飯を食べたい。その機会を作る。 	
安全安心	<ul style="list-style-type: none"> ■防災(消防団) ■防犯 ■交通安全 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に対するひとりひとりの意識が低い。 ・消防団の活動が知られていない。地域の実情が分からない。・消防団の人数が少ない ・道路が暗い。不審者・野生動物(イノシシ・ヘビ・サル)など危険。 ・道路が狭い、木がかかっている。(木の所有者が分からない) ・交通マナーが悪い。スピードの出しすぎ。 ・手すりがない道もある。・グランドにドクターヘリが飛ぶと砂ぼこりが舞う(消防の水もとまいてほしい)。 ・いざというときの地域の連携が難しい。・避難所が遠い危険。 ・目印になるものがなくて、有事のときに困る。・通学路に道路標識(少)。 ・下校時の見守り活動が無い 	<ul style="list-style-type: none"> ・事件事故がなく最終的に皆が安全安心に過ごせるまち ・みんなが安心して歩けるまち ・古賀地区にいる人が安全安心に過ごせるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団下校、パトロール(学校) ・交通マナー講習会、登校時の誘導(地域) ・防災訓練(消防団)・避難訓練(学校) ・立しよう(保護者) ・集団登校つつじが丘通学時間 ・消防団の見守り・防災防犯マップ(自治会) ・一人暮らしの方の防火訪問(消防団) 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に対するひとりの自分ごととしてとらえるなど意識を高める。・地域のみんなで日頃からの訓練。 ・ご近所同士で声をかけ合いながら避難する。・地域全体で立しようなど見守り活動をすすめる。 ・地域の行事等で消防団の活動をPRする。訓練の様子を発信する。・防災防犯マップを地区全体に ・ライト付きのブザーを持つ。防犯に対する意識を持つ。・街灯を増やす ・お互いに譲り合いの気持ちを持つ。・大人がしっかり見本になる。ひとりひとりがルールを守る。 ・子どもたちへの声かけ(通学路の案内、歩き方など)・危険な所は分かりやすいように目印(表示)を置く ・地域のみんなで連携して、地域の状況を把握する。(木がかかり通りにくい所、暗い所など) ・目印になるように通りに名前をつける。・砂ぼこりが舞わないように整備する。 	